

# 大鹿村議会だより

第17号 平成28年10月15日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

九月定例会では四件の条例案、平成二十七年一度一般会計及び特別会計決算の認定、平成二十八年一度一般会計及び特別会計補正予算案、他に請願二件、陳情二件が上程され、審議の結果陳情一件が不採択となったほかはすべて認定、可決、採択されました。

不採択となった陳情は、「リニア事業への反対を求める陳情書」であり、本村にとつて極めて重大な影響を及ぼす内容の陳情書であったため、全議員で構成する特別委員会を設置して審議した結果、特別委員会、本会議とも不採択と決しました。

討論の中で出された意見としては、リニア事業に反対するのではなく、村民の納得できる条件をJR東海から引き出せるまで、とことん話し合うべきだ、松川インター大鹿線等の道路改良はリニア事業がなければ実現しない、反対してもリニアが止まるわけではない、また議会としてしっかりとJR東海に對し意見をすべきである、などが出されました（詳細は八ページ）。

陳情は不採択となりましたが、当議会としてはこれらのことを受け、今会期中に「議会あり方研究会」を開き、その中でリニア事業に対する議会としての考え方をまとめ、JR東海に對し意見書を提出することを決定しました。

また、七月二十六日には大鹿村議会として、山梨県のリニア沿線を視察に行ってきました。JR東海大鹿分室長の上野氏、環境保全事務所長の太田垣氏にも同行していただき、説明を受けました。

県立リニア見学センターでは、夏休みとリニア試乗会とが重なって大変盛況であり、駐車場にも待たなければ入れないほどで、リニアへの関心の高さがうかがえました。他にリニア建設の掘削土で谷を埋め立てて農地にしたところや、大鹿村のようにフードで覆われた状態でリニアが通行する状況等を視察してきました。

農地については数年前にも行ったこ



とがあります。当時はまだ区画整理が済んだばかりの状態でしたが、今ではほとんどの区画が耕作されており、大型トラクター等で効率的に作業をしている姿が印象的でした。

またフード内のリニア通行についても、「あ、今通過した！」ことがわかる程度で音、振動とも苦になるようなレベルではなく、小渋川の溪谷での音の反響を考慮しても、恐らく問題にはならないかと思われます。ただし見学センターのようにリニア車両が顔を出すところでは、トンネル内からの山なりのような轟音と目の前を通過するときの風切り音はかなり音量があり、天竜川を渡る部分においては環境重視でフードを被せた方がいいのか、見た目重視で被せない方がいいのか、議論が分かれるところかと思えます。

都留市内を通過中に建設現場で造成工事が行われている所があり、リニア工事による掘削土を使っているとの説明がありました。当初都留市では掘削土は要らないと言っていたそうですが、建設資材としての利用価値を認識してからは、わが市の財産をよそへ持つていってもらっては困る、と態度が一八〇度変わったとの顚末が紹介されました。

（大鹿村議会議長・熊谷英俊）

平成28年9月

# 大鹿村議会9月定例会

平成二十八年九月大鹿村議会定例会が九月九日から二十日までの十二日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告二件、付議事件十七件、議員発議二件で、すべて原案どおり可決されました。請願・陳情は四件で、陳情一件は不採択、他の三件は採択されました。

## 報 告

報告第一号 平成二十七年度決算に基づく健全化比率の報告について

▼実質赤字比率、連結実質赤字比率とも該当なく、実質公債費比率は五・二％、将来負担比率も該当なく、健全です。

報告第二号 専決処分事項の報告について

▼物損事故の損害賠償です。

## 付議事件

議案第一号 大鹿村税条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二号 大鹿村国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について

▼国の法改正に伴う一部改正です。

議案第三号 過疎地域に係る税の特例

に関する条例の一部を改正する条例の制定について

▼過疎地域特措法の期間延長によるものです。

議案第四号 大鹿村介護予防機能訓練室の設置及び管理条例の制定について

▼改築工事中の介護予防施設に設置する訓練室についての条例制定です。

議案第五号 平成二十七年度大鹿村一般会計歳入歳出決算の認定について

議案第六号 平成二十七年度大鹿村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第七号 平成二十七年度大鹿村立診療所特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第八号 平成二十七年度大鹿村営水道特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第九号 平成二十七年度大鹿村介

護保険特別会計歳入歳出決算の認定について

議案第十号 平成二十七年度大鹿村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について

▼平成二十七年度の決算については「広報おおしか」をご覧ください。

議案第十一号 平成二十八年度大鹿村一般会計補正予算（第二号）について

▼除雪委託料、福德寺トイレ整備など。

議案第十二号 平成二十八年度大鹿村国民健康保険特別会計補正予算（第二号）について

議案第十三号 平成二十八年度大鹿村立診療所特別会計補正予算（第二号）について

議案第十四号 平成二十八年度大鹿村営水道特別会計補正予算（第二号）について

議案第十五号 平成二十八年度大鹿村介護保険特別会計補正予算（第二号）について

議案第十六号 平成二十八年度大鹿村後期高齢者医療特別会計補正予算（第一号）について

議案第十七号 平成二十八年度大鹿村一般会計補正予算（第三号）について

▼ふるさと納税が好調につき返礼品を増額するものです。

## 請 願

一、T P Pに関する情報開示の徹底と持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める意見書提出に関する請願書

二、「奨学金制度の充実を求める意見書」の提出に関する請願書

▼いずれも採択され、意見書を提出。

## 陳 情

一、公共工事設計労務単価引き上げを受け、建設労働者の適正賃金確保に向けた取り組みを求める陳情

▼採択されました。

二、リニア事業への反対を求める陳情書

▼賛成三、反対四で不採択となりました。（詳細は最終ページ参照）

## 議員発議

発議第一号 T P Pに関する情報開示の徹底と持続可能な農業経営の実現に向けた農業政策の確立を求める意見書の提出について

発議第二号 奨学金制度の充実等をもめる意見書の提出について

# 一般質問

○伊東康明議員



**\*道の駅建設について**

**質問** 今年度の新規事業として道の駅建設についての検討委員会が予算化されているが、委員会は現在立ち上がっているか。できていないとしたら、いつごろ予定されているのか。

飯島の田切の里が今年の七月に国道一五三号伊南バイパスに開業した。下伊那では豊丘村で村の駅の開設準備委員会が設立されており、現在、道の駅の開業に向けて準備が進められている。近隣の道の駅開業に向けての段取りを見ると、土地の確保から内容についても多岐にわたって検討され、かなり時間がかかって進んできている。大鹿村も最終的には道の駅を目標に進めていくと思うが、開業予定はいつ頃か。

**村長** 検討委員会は現在組織されていない。今その前段の会議として、商工会を中心に研究させていただいているところです。検討委員会については今議会中の全員協議会で基本的な考え方を示したい。

**副村長** 「おおしか創生総合戦略」の「安心で快適な暮らしをつくる」という中で、日常生活に必要なサービス、

村の賑わいや観光交流などの機能を集約した拠点施設として道の駅の設置が求められています。

また、平成二十七年度に商業活性化検討委員会で答申をいただいた中でも共同店舗やコンビニなど消費者の最大のニーズで、これらを拠点施設に併せて設置する、また買い物弱者や交通弱者対策で、買い物などの手段の検討を併せて行うようにということでした。

一方、商工会は、村内商店の不振、後継者不足などで、なかなか厳しい状況にある。

村の創生を推進していくためには、住む人が安心して生活できる環境を整え、村民はもとより、村外から訪れる人にも地域の魅力を感じていただける拠点施設を作っていく必要がある。村民の暮らしを支える商業施設を併設した道の駅を計画していきたい。これにより村民の購買を村内に戻していく中核的施設として日常サービス提供が継続できるようになると思うし、観光客の集客を見込めるので、村内の産業振興に寄与するものと期待している。

現在商工会等と運営の内容について検討している。皆さんの意向、商業活

性化検討委員会の答申を含め、施設の規模や配置など検討を行い、産業振興、観光振興、高齢者福祉など、いろいろな機能を発揮できる道の駅を検討していきたい。

これからの日程だが、検討委員会をできれば十月くらいに開きたいと考えている。意向等の集約も必要だが、早めに設置して、できれば今年中にある程度の方針を出し、来年度の補助金の申請に間に合うように鋭意進めていきたい。施設については、できれば十九年度中に整備し、三十年度中の開業を目指していきたい。施設の場所は現在ビガーハウス、秋葉路のある敷地を中心に設置したいと考えている。

**質問** 近隣の道の駅の開業までには四、五年かかっている。商業の活性化、福祉、災害の防災拠点等々、すべてのものを満たすにはなかなか問題も多いと思う。魅力ある施設をきちんと作っていくには、しっかりと検討して、できればなるべく早いうちに開業できるような方向で進めていただきたい。

**\*同報無線屋外局場所見直しについて**  
**質問** 最近、狭い地域に集中して雨が降るゲリラ豪雨や、また全国で野生の熊等の住宅地への出没等、予想しない場所での危険が増している。同報無線



による注意放送は大変重要だが、現在住宅地や通学路で全く聞こえない場所がある。西地区に村営住宅も建設され人の動きも変わってきている。今後、同報無線屋外機の設置場所見直し、あるいは調査をされる考えはあるか。

**村長** 村内の情報伝達については、昔は有線放送があったが、線等の保守ができなくなり、平成二年に情報無線として設置された。このときに、どこでどのように聞こえるか、地形、音響等をしっかりと調査した。その後、平成十八年にデジタル化で機械を変えたが、屋外子局の位置はほとんど変更していない。道路工事や、小学校は学校の工



事の時に移動している。デジタル化のときに子局を新設したりして、できるだけ聞こえるように調整してきた。鹿塩の場合は、当時J Aの建物のところに局があったが、音が大きいというご意見があつて現在の位置に行った。

現状を見ると聞こえないところがあるとのことなので、今後できるだけ早く、費用、内容等を研究する中で、聞こえ具合等調査を実施していきたい。

当時より樹木がかなり大きくなつてきている。調査は落葉期よりも緑が活性化している時期がよいが、現在まだ予算がないので、恐らく来年度になると考えている。

**質問** 全戸の皆さんが聞こえるようにすることは大変難しいと思うが、三年くらい前に中学校の道端、子どもが数名歩いている所に熊が出たこともあるが、そこは全く音が聞こえない。

平成二年に同報無線ができて、十八年に電子機器の入れ替えの時も見直して、それからもう十年たっている。予算もかかることなので、ぜひしっかり計画をもつて取り組みをお願いしたい。

**村長** 屋外、屋内問わず大事なことだと思つてゐる。一つ、屋内の受信機は一年に一回乾電池を取り替えているので、停電時にもある一定時間は聞こえる

はずです。屋外子局もバッテリーを内蔵して一定時間は聞こえる状態になっている。また西の小島地区は、職員が行つたときには全く聞こえないことはない、聞こえているという報告も受けている。いづれにしても、それぞれ調査する中で、できるだけいい状態になるように進めさせていただきたい。

### ○秋山光夫議員



**\*防災における自助・共助と村自体の対応**

**質問** 村長はたびたび自助、共助という言葉を口にされるが、大鹿村においては昔から結いという精神的な結束があり、自助、共助は十分に行われると確信している。あとは行政の村民を守るといふ姿勢だ。

大災害が役場職員のいない深夜、休日に突然起きた場合、村長を含め村内居住、村外居住の役場職員は家屋倒壊、土砂崩落で道路不通、倒木、電柱倒壊などにより停電、断水が起る危険性は非常に高いと思う。このような状況の中で村行政の対応は十分考えられているのかどうか。特に電気、水、食料

等の確保、多様な通信手段の確保、各自治会防災倉庫への救難物資を充実し、自助、共助の力をさらに強めることが、村の対応の手助けになると考えるが、村長はいかがお考えか。

**村長** 過去にはそれぞれの家の近くに消防団員がたくさんいたが、従前に比べると大変少なく、またその三分の一は役場職員であり、緊急時にそれぞれの場所に人員の配置は難しいので、自助、共助の話はよく申し上げている。

村では降雨が続く場合については、同報無線等でお知らせするとともに、災害警戒本部を設けて、役場職員等張り付きになってくる。しかし、急きよ起きる地震についてはこの対策は取れない。だから、なおさら自らの命は自ら守つてくださいたいと願っているところなんです。しかし、東海地震についてはかなり研究が進んできており、地震予知情報等が流れてくることになっている。その場合には、やはり災害警戒本部、発生後は対策本部をつくることになっており、職員にはきちんとしたマニュアルを作成して周知している。

**総務課長** 休日、夜間等の災害対応については、原則的には大鹿村役場職員大規模災害時初動マニュアルに沿った対応となる。その中に職員の参集の項目があり、勤務時間外の職員の参集基

準がある。地震や風水害の情報や状況によって判断基準や参集範囲、配備体制、参集時の行動が定められている。さらに参集後の行動、また災害が発生している場合の活動体制が記載されているので、それに沿った対応となる。

役場の職員は消防団員を兼ねている方が多くいる。現地での対応等を行っている場合がある。また、災害の状況によっては道路状況が悪く役場まで到着できないことも十分に予想されるところだ。参集範囲の職員が全員すぐ集まるものではないと予想されるので、集まった職員の中でそれぞれ臨機応変に対応していくことが大変重要になってくる。

**質問** 役場職員が深夜や休日に役場に参集することは、正直言つて非常に難しいと思う。各地の状況を調べてもほとんどどのところで災害警戒本部が設置できたのはかなり時間が過ぎてからと聞いている。そういうことを踏まえて、もう少し自助、共助を強化して不備な状態をフォローしていく体制を作つていければと思う。その中で、多様な通信手段の確保ということをお話した。

昨日、猟友会の講習で皆さんと顔を合わせた。役場には猟師の無線を受信する機械がないとのことだ。猟師同士の緊急ダイヤルで連絡を取り合いなが

ら、各地の被害を役場に報告すること  
で被害状況把握の手伝いができるの  
ではないかと話をした。皆さん賛成で、  
役場から猟友会に対して協力をお願い  
したいという一言が欲しい。

**村長** 以前にも猟友会内の無線で得ら  
れた情報が直接は村に入らないので、  
どなたでも電話等使えるもので役場に  
知らせていただければありがたいと申  
し上げたつもりだ。それぞれの情報を  
こちらに入れていただくのは大事なこ  
とだと思うので、有事の際にはぜひご  
協力をお願いしたい。

**\*各地防災倉庫備蓄品の種類、数量は  
どのような検討のもと備蓄されたのか**  
**質問** 大鹿村に地形的に非常に似通っ  
た他村の防災について調査した。その  
村は大災害が起きたとき、各自治会、  
各戸は孤立する確率が高いという想定  
のもとに、各自治会集会所に世帯数、  
人数を考慮して、水、アルファ米、乾  
パン、缶詰、毛布、救急箱等々を備蓄  
し、防災体制を整えているようだ。大  
鹿村では世帯数、人数を検討して備蓄  
したか。

役場の対策本部がすぐにはできない  
中で、自助、共助の備品倉庫の整備品  
をもう少し充実できないか。各町村の  
いろいろな防災倉庫で備蓄している品

物は誠に充実している。ガソリント  
ンクばかりでなく混合のオイルまで入っ  
ている。救急箱も必ず用意されている。  
各自治会とも自助、共助で頑張る。そ  
のためにも備蓄倉庫の再検討と充実を  
ぜひともご検討いただきたい。

**村長** 最初に備蓄したのは平成十六年  
で。中心的には北入、上青木等でした。  
釜沢についてもその後、徐々に加えて  
いった。考え方は、万が一孤立したと  
き、各個人宅の非常持出品や備蓄品以  
外で必要となると考えられる物を備え  
たという記憶がある。いろいろな課題  
を言われたが、ある物をどう使うかと  
いうように使えば、一時的にしのぐこ  
とができる。その場で必要になった物、  
これなら代替に使えるというようなア  
イデアをしっかりと出して、有効に使っ  
ていただければと思っている。

先日の自主防班長会の際、不要な物  
等のご指摘があったので、それぞれの  
班長さんに改めるべきは改めるという  
ことで申し出をいただくようお願いし  
た。今その辺の集約中なので、また希  
望品として出されてきたものについて  
は対応を考えていくことになると思う。  
なお食料や燃料、医薬品などは現在の  
防災倉庫では温湿度の管理が難しいの  
で置いていません。医療関係として、  
温湿度にあまり関係ない三角巾や滅菌

ガーゼなどは追加して置いたようです。  
食料品については概ね四か所に備蓄し  
ている。釜沢にも置いてあります。

**質問** 四か所備蓄しているというお話  
だが、各地の防災倉庫から離れたとこ  
ろに住んでいる高齢者の話を聞くと、  
そこまで取りにはいけない、空の容器  
を持っていつて水を汲んだら、帰りは  
帰れない、崩れている場合には行かれ  
ないという意見も出ている。やはりも  
よりの防災倉庫に最低限ご用意いただ  
ければという話を聞いている。検討を  
お願いしたい。

## ○河本明代議員



**\*工事車両の急増に伴う交通弱者対策  
について**

**質問** 去る八月二十四日、県道松川イ  
ンター大鹿線のトンネル新設、拡幅工  
事の説明会が行われた。また、九月七  
日にはリニア本体の南アルプストンネ  
ル工事の説明会が開催され、明日から  
は地区別の説明会も開催されることにな  
っている。

小浜線の説明会では工事期間中の工  
事車両の通行量について、来年夏のピー

ク時に区間によっては一日平均五五二  
台の工事車両が通行することが示され  
た。現状の狭くカーブが連続する小浜  
線にこれだけの台数を通るわけだから、  
渋滞して大変なことになるのではない  
かと不安を感じた村民は少なくない。  
狭い道でダンプに挟まれたり、頻繁に  
すれ違わなくてはいけないようにな  
ると、村外への運転自体を控えたくなる  
ような可能性もあると思う。高齢者を  
中心に、いわゆる交通弱者となる方が  
増えることが危惧されるが、そうした  
状況への対策を何か考えているか。

村内の生活道路を通行する工事車両  
も今後急増していくことが見込まれる。  
地域公共交通会議の資料に大鹿村コ  
ミュニティバスの利用促進事業、利用  
転換事業、認知度向上事業といった文  
言があった。このコミュニティバスと  
は何か。どのような内容を考えておら  
れるのか、お伺いしたい。

**村長** 松川インター大鹿線のトンネル  
新設と拡幅工事の説明が行われた。八  
月三十一日には工事の安全祈願が行わ  
れ、この道路の改良促進期成同盟会の  
会長として出席した。この曲がりくねっ  
た道に約二〇〇〇メートルに及ぶ二本  
のトンネルが造られることは真にあり  
がたいことと思っている。しかし、現  
道を利用している工事で、痛みのあるこ

とも事実だ。改めて、約一年間になるが、村民皆様のご協力をお願いするところですよ。

土砂運搬の車の台数については八月二十四日の説明会で初めて示された。これは今後、掘削開始までの間に、台数を減らす方法等についてJR東海、県建設業者、地元の方々等と話し合いを持っていきたいと考えている

交通弱者に関しては、とりあえず通常のバス運行はちゃんと確保されるので、その公共交通を利用されることをぜひお考えいただきたい。また、NPO法人で運営している過疎地有償運送もあるので、そんな点もお考えいただければと思う。

現在、患者輸送車の名前で運行しているものについても、運行の時間、方法等を改めて考えてみたいと思うし、徐々に研究を進めている段階です。マインス面ばかりとらえるのではなくて、こうだから逆にこうしたらということも、みんなで考えていかなければならないと思っているので、いろいろなご意見をいただければと思っている。

**総務課長** 地域公共交通会議の資料に示されている利用促進、利用転換事業というのは、卒業前の中学三年生を対象に、広域連合と連携して、路線バスの乗り方など、高校へ通うときに路線

バスを利用していただくので、ワークショップを開催して利用促進を図る事業を行っている。それから、認知度向上事業というのは、同じく広域連合と連携して、南信州公共交通システムと

大鹿村では路線バス、福祉バス（患者輸送車）を広く村民に周知をして、自家用車主体から公共交通主体の生活様式への変化を促す事業だ。今後、高齢化に伴って交通弱者が増加することが予想されるので、公共交通等なるべく利用していただくような啓蒙、啓発等も進めていかなければならないと考えている。

**質問** コミュニティバスとは福祉バス、現行の患者輸送車を拡充するという意味か。いかまいカーや現在のバスを拡充していくお考えはないか。

**総務課長** コミュニティバスとは福祉バス、現在では患者輸送車だが、路線バス、患者輸送車等を広く周知して利用していただくことで、自家用車から公共交通への転換、生活様式を変えていくという考え方で記載している。

**村長** いかまいカーについての支援というご発言だが、現在のルールを把握していないところがあるので、どんなことができるのか考えていきたい。

**質問** 「村民のご協力をお願いする」ではなくて、実際に不自由を強いられ

ることが少しでも少なくなるように、暮らしが守られることを第一にご検討願いたい。

### 東村邦子議員



\*松川インター大鹿線トンネル新設工事に関して

**質問** 去る八月二十四日、工事説明会で二か所のトンネル新設工事の概要が示された。休工日に関しては日曜の一日ということだった。県の道路改良工事は土日休工ということで、観光業の一員として、せめて土日の二日、休工日にしてほしいと思っていたので頭を抱えている。

下段の※印の所に「工事の状況等により、やむを得ず、上記以外の時間や休工日に作業や運搬を行う事があります」と記されている。これは休工日の日曜も工事や運搬が行われる場合があるということと、とんでもない内容ではないかと感じている。最低限、日曜の休工日の一日はどうしても死守したい譲れないところだ。

JR東海の説明にある「やむを得ず」の内容は村としてはどう規定してい

れるのか、どう約束を取り交わすつもりなのか伺いたい。

**村長** 「上記以外の時間や休工日」と記載がある。その「上記」の中には、作業時間として準備工事、トンネル工事、資材・発生土の運搬等の項目があつて、作業の時間が示されている。この三件で示されている以外の時間帯と考えられるので、例えば日曜日のみでなく夜間のことなども含まれると解釈した。

この中身について問い合わせをしたところ次の四件が挙げられた。まず、超大型の特殊車両の搬入・搬出。これは道路管理者の通行許可がないと通れない。また、基本的に特殊車両等については夜間通るように私たちも要望しているところですよ。だから日曜日に通ることは多分ないと考えられる。二つ目として、建設機械の点検・整備という項目があった。これは当然のことながら建設機械の点検は道路上でやることはないの、これも道路には直接はかわらないと思っている。もう一点、日曜日でないとできない、休工日でないとできない測量等が挙げられてきた。これも今のと同じで、施工ヤード内で行われることだと思う。四項目目に突発的なトラブルが挙げられている。これについてはご質問の緊急時と認識さ



れると思う。ということで、日曜日にトラック等が多量に行き来することは緊急時以外にはないと読み取れると思っている。

いずれにしても、一台でも少なくなるよう効率的な運行を今後も求めていきたい。

**質問** 七日のリニアの本体工事の説明会のときに配られた資料の中に、休工日以外という説明のところに「工事の進捗状況等により、上記以外の時間や休工日に工事を行うことがあります」とうたっている。これは本体工事のトンネル掘削だが、やはり企業側としては工事の進捗状況が一番のことであり、日曜日に交通量が増えることも十分考えられる。

緊急時以外のトンネル工事、資材・発生土運搬は行わない、休工日の日曜は安息日として大鹿村民が最低限享受できるように努めてほしいという内容をぜひ覚書に加えていただきたい。

**村長** 極力そういうふうにしてもらうようにしていきたい。

**質問** J Rの工事に関して、すべて村長だけに責任を押しつけるのではなく、議会も村民の暮らしを守って、これらを育てるということを考えたときに、姿勢をきちんと明示していかなくてはいけないのではないかと思っている。

大鹿村がJ Rのリニア工事が終わった後も、本当に輝く村であるように最低限の環境を守る努力をしていきたい。

### ○北島千良穂議員



**\*リニア工事の残土問題と理解と合意について**

**質問** リニア工事で膨大な残土が搬出されるというのに、一部の仮置き場が決まっているだけで、大半の仮置き場も候補地はあるものの決まっていない。ましてや最後の残土置き場は交渉中、調査中とJ Rは逃げ腰だ。大鹿村から出る残土は松川町に運ばれるということだが、松川町の町長はまだはっきりしたことは決まっていないとマスコミに話している。トンネルを掘れば残土が出るのは当然で、その行き先の仮置き場、最終置き場が決まり、安全確保ができてから工事を始めるのが当然だと思うが、どう考えるか。

次に理解と合意についてだが、J Rは説明会をもって住民の理解が得られたと勘違いしているように思われる。大鹿村にかかわるすべての工事の残土問題、土地の問題、道路の問題、諸問

題が解決した時こそ理解と合意が得られると思うが、いかがか。

**村長** トンネル工事を進めるためには出てくる掘削土の行き場がなければ進めることはできないと思っている。掘ることができるよう用地等の交渉をしていくものだと考えている。J Rの担当者も松川インター大鹿線の改良後の搬出となれば、今から二、三年後のことになる。それまでには解決したいと語っている。

それから、理解と同意ということだ。これも残土の置き場、土地の問題、道路等の問題について、解決する見通しがないまま工事を始めることは、業者としてもできないと考えている。そのために、七日に工事説明会が初めて行われた。今後、各所で何回か行われるので、それぞれ疑問点などしっかり問い合わせていただきたい。そして、きちんとした回答を得ていくべきだと思っている。

**質問** 松川町に置く残土の問題に関して、工事が始まって二、三年後には必ず解決できるということだが、それでは住民に納得しろといっても理解したいと思う。J Rはトンネルが開けばいいが、住民は残土と永久に付き合っていかなければならない。とにかく残土置き場については、本工事の祈願祭

が開かれる前に、必ず住民の合意を得てもらうことをお願いする。

### ○小澤 正議員



**\*村長三期目の進退について**

**質問** 村長の二期目も残りわずかで任期満了に伴って村長選が一月に行われる。次期三期目はどうなさるのかお考えをお聞きたい。

**村長** 四年前にこういう課題があると幾つか申し上げた。方向性が見えてきているものもあるし、まだまだこれからというものもある。その二つが現在の私の気持ちの中でせめぎ合っている中で、検討中ということでご理解いただきたい。

**質問** 今議会開会中にご返事をいただきましたが、いかが。

**村長** 以前ぎりぎり表明が後を決めるのに非常に苦労したというご意見も聞いているので、できるだけ早めに公明正大に申し上げたい。今議会中にはちよつと無理かもしれないが、できるだけ早く結論を出したい。

## リニア事業への反対を求める陳情書に係る特別委員会

今定例会には今の太鹿村で最大の課題といえるリニア新幹線事業に対して住民六名より「リニア事業への反対を求める陳情書」が提出されました。この陳情書の審議については特別委員会（伊東康明委員長）が設置され、九月十二日に行われました。

委員会では陳情筆頭者である前島久美さんに参考人として出席していただき、陳情の趣旨説明、質疑が行われ、委員長を除く議員全員が陳情書に対する討論を述べた後に採決が行われました。

議長はオブザーバーとして意見は述べましたが採決には加わらず、賛成三、反対三の同数となり、委員長裁決により不採択となりました。本会議でも三対四で不採択となっています。

### 各議員の質問・討論

#### ○齋藤栄子議員（反対）

とても不安で、南アルプスも守りたいが、それだけで反対、中止と突き進んでよいのか。リニアに期待している子どもたちの思いをどう考えるか。

大河原地区の高齢者の方から三六災

害で国に助けてもらった恩を忘れてはいけないと言われている。

観光業にかかわる者にとつて本当に死活問題だと危惧しているが、これからは反対、中止ではなく、とにかく条件闘争に持ち込んで誠意を見せてもらうまで頑張るしかない。

#### ○北島千良穂議員（賛成）

リニア工事には元から反対の立場。法律の下でやっているのも多分進んでいくと思う。住民の不利になることは条件闘争をしていかなくてはならないと思うが、この陳情書には賛成。

#### ○小澤 正議員（反対）

なぜ対策委員会の中で陳情趣旨のよいうなことを詰めて議論しなかったのか。なぜ今問題にするのか。

反対してもリニアは中止にならない。

#### ○秋山光男議員（反対）

この機会を活用して小渋線の改良は大鹿村発展の基本。諸々の問題はありますが、将来の大鹿村を考えたら受け入れるべき。工事が終われば静かな太鹿に

戻る。

太鹿村一村だけで生きていくわけにはいかない。中川、松川、隣接の自治体とも連携を取りながら、議員として村の発展と村民の安全・安心のための道ができることが最優先だと思っているので、この件は不採択にしたい。

#### ○東村邦子議員（賛成）

一期目のときはリニア工事に一〇〇％反対だったが、二期目になって、反対七、三〇％はただ反対ではなくて、村民の小渋線への思い、国策として動き出した現実を受け止めて、村民の利益にならないように議員として行動しなくてはいけないのではないかと考えるようになった。今回の陳情を受けて、気持ちとしては初めの一〇〇％反対の考え方は変わっていないと認識した。

趣旨に賛同するので採択。

#### ○河本明代議員（賛成）

太鹿だけの問題ではないという話が出たが、いろいろな問題を抱えているところも太鹿村だけではない。太鹿の残土は生田が候補地になっているが、下流の地域から不安の声が上がっている。

今のまま事業者の判断で工事に向か

うことは認められないという議会としての意思表示をした方がいい。

#### ○熊谷英俊議長

JR東海のこれまでの対応には、村としてずっと協議を続けてきていて、受け入れられた部分もあるし、受け入れられていない部分もある。まだ協議は継続中だし、今後も辛抱強く協議を続けるということだ。議会の中からもしっかりと態度を示していくという意見もあつたように、議会としても対応していきたいと考えている。

村民には賛成の気持ちもあるし、反対の気持ちもあるし、いろいろ複雑な気持ちを抱えている。必ずしもリニア事業に反対というこの意見が村民の意見を反映したものとは取れないと思う。これはリニア反対派の意見と判断せざるを得ないので不採択にすべき。

議会報告会及び懇談会を左記日程で開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

▼11月20日（日）午後4時から

会場 太鹿村交流センター

▼11月21日（月）午後1時半から

会場 公民館太鹿地区館